

「召されたときのままで」 2026.07.19
コリント人へ手紙第一 7章 17節～24節

はじめに

今年は、新約聖書「コリント人への手紙第一」から、みことばを学んでいます。

今朝は、7章 17節から 24節です。使徒パウロは、コリント教会からの手紙にあった「結婚についての質問」に答える中で、ここでは「キリスト者として生きる一般原則」について語ります。

それは、「召されたときのままの状態で歩み、御前にある」ということです。

1 召されたときのままの状態（17.20.24）。

キリスト者は、「主からいただいた分」「神がおののおをお召しになったままの状態」があります。使徒パウロは、それに従って歩むことを勧めます。つまり、主の恵みと導きを無視して、自分の願いや考えを優先させることを戒めているのです。それを二つの例をあげて説明します。

2 割礼の有無（18-19）。

まず、ユダヤ人が受けていた「割礼」を取り上げます。割礼は、神がお選びになったことを示す印として、ユダヤ人男子が受けました。割礼を受けていない異邦人がキリスト者に加わってくると、ユダヤ人キリスト者の間から「異邦人も割礼を受けるべき」という主張がでました。それについて、パウロは「召されたとき割礼を受けていたのなら、その跡をなくしてはいけません。また、召されたとき割礼を受けていなかったのなら、割礼を受けてはいけません」と教えました。

割礼も無割礼も取るに足らぬことだからです。キリストの救いにあずかった者は、洗礼を受けます。それで十分なのです。重要なのは、「神の命令を守ること」です。ここでパウロは、律法主義を主張しているのではありません。「外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではありません。かえって人目に隠れているユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です」（0-7

2:28-29)。「キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです」(ガラヤ 5:6)ということです。

ですから「おのこの自分が召されたときの状態にとどまっていなさい」と命じます。

3 奴隷と自由人 (21-23)

割礼は、ユダヤ人と異邦人の問題でしたが、次の奴隷と自由人の問題は、身分の問題です。当時の社会には、奴隷がいました。そして、奴隷の中からキリスト者となる者が多くいたと思われます。

その奴隷キリスト者に勧めたのは「気にするな」でした。奴隷であるからキリスト者ではないことではない。そのことで悩み苦しむなということです。ただ、「もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさい」とも勧めます。奴隷よりも自由人の方が良いことは当然です。

しかし、パウロは、多くの奴隷が自由人にはなれないことを知っているので、「主に召された者は、主に属する自由人であり、同じように、自由人も、召された者はキリストに属する奴隷だからです」という真理を指摘します。

主に召された者は、奴隷であっても、自由人だということです。この世では、束縛された身分ですが、教会では何の差別や区別なく、キリストにある自由人なのです。同様に、自由人も、キリストにあっては、キリストの奴隷なのです。キリストに従わない自由はなく、キリストに縛られ、キリストに全く服従しなければなりません。

「あなたがたは、代価をもって買われたのです」。これがその理由です。キリスト者は、神が代価を払って買い取ったものです。

「人間の奴隷となってははいけません」。これは、「奴隷としての身分から逃れよ」と言っているのではないことは、21 節から明らかです。むしろ、そのことにこだわらず、奴隷も自由人も、キリストの奴隷として、キリストに従って生きなさいということです。

結論

キリスト者の生き方の基本は、「召されたときのままの状態」で歩み、御前にいる」ことです。今、独身なら、結婚して

いるならその状態で。仕事も同じです。

神の恵みと召しを無視して、今の自分の状態を嘆き悲しみ、自分を不幸だと思うことは、神のみこころではありません。今の恵みと召しを確信して、しっかり歩むことが大切です。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神とし

て信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。
アーメン。